

【概要】

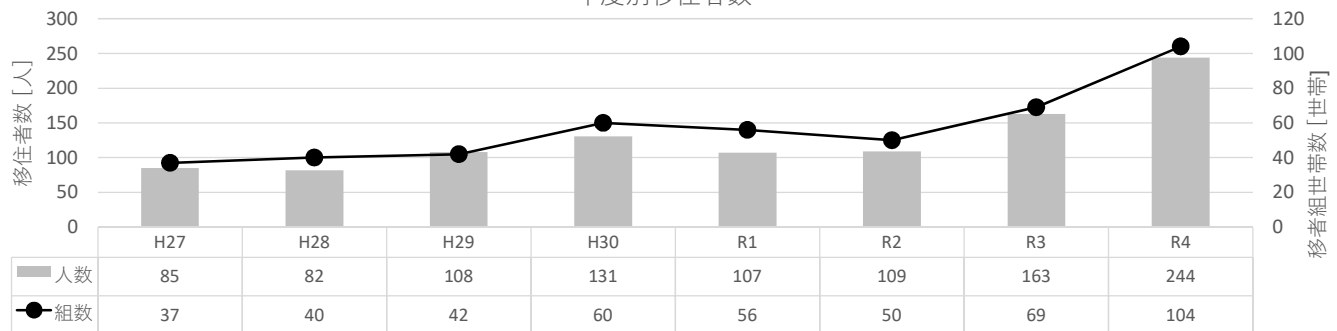
- ・コロナ禍であるものの、行動制限をはじめ様々な規制が大きく緩和されたことから、人の動きが一層活発になった。
- ・依然、教育移住への関心が高い傾向であり、教育移住支援員の配置により、学校見学や個別相談などこれまで以上に充実した対応が可能となった。
- ・実際に伊那市に足を運ぶ移住希望者・検討者も多く、そのほとんどが田舎暮らしモデルハウスや移住体験住宅を利用し、地域を知ったり、空き家や学校見学などの拠点として利用している。また、移住体験を通じて、実際の移住に対するイメージづくりの場として好評いただいている。
- ・移住者をはじめ、空き家バンク制度の利用も年々増加し、ともに過去最高の実績であった昨年度を大きく上回る成果となった。

移住相談件数 781件（昨年度比 約1.6倍） 移住者数 244人（昨年度比 約1.5倍）
 空き家バンク新規登録件数 86件（昨年度比 約1.2倍） 空き家バンク成約件数 71件（昨年度比 約1.4倍）
 モデルハウス利用組数 75組（昨年度比 約2.0倍） 移住体験住宅利用組数 46組（昨年度比 3.5倍）

【令和4年度の傾向】

- ・社会動態の暫定値は+85人（昨年度 ▲171人）で、首都圏への転入転出はほぼ横ばい、中京圏、関西圏ではいずれも転入超過となっており、三大都市圏をはじめ、県外への転出は大きく鈍化している。
- ・一方で、依然、県内転出が多く、特に上伊那地域（南箕輪村、箕輪町）への転出に歯止めがかかっておらず、全体の大きなマイナス要因となっている。
- ・引き続き子育てや教育移住への関心が高く、特に伊那小学校や伊那西小学校に対する相談が多い状況である。
- ・移住相談は、窓口での対面に加えオンライン相談も定着し、相談者も増加している。一方で、直接話を聞きたいとのニーズも高く、東京・大阪を中心とした都市部で開催される相談会やイベントには大勢の方が足を運んでくれている。
- ・オンラインを活用したセミナー等への参加者は一定数の参加はあるものの、コロナによる様々な規制の緩和などもあり、一時期と比べ減少傾向にある。

年度別移住者数

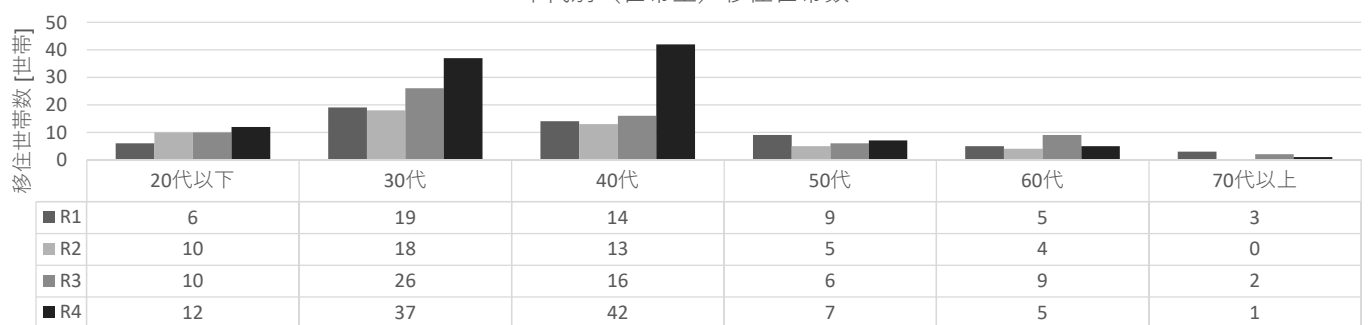


施策別移住世帯数

※複数施策利用の重複を含む



年代別（世帯主）移住世帯数

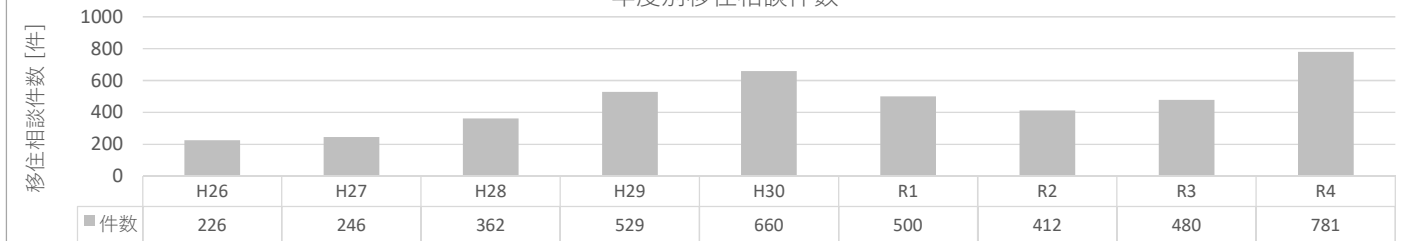


転入元別移住世帯数



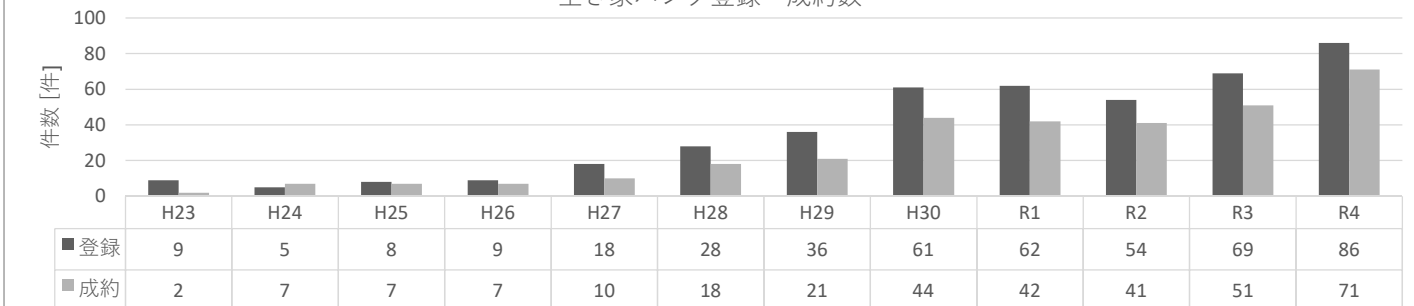
各施策による移住定住の実績

年度別移住相談件数

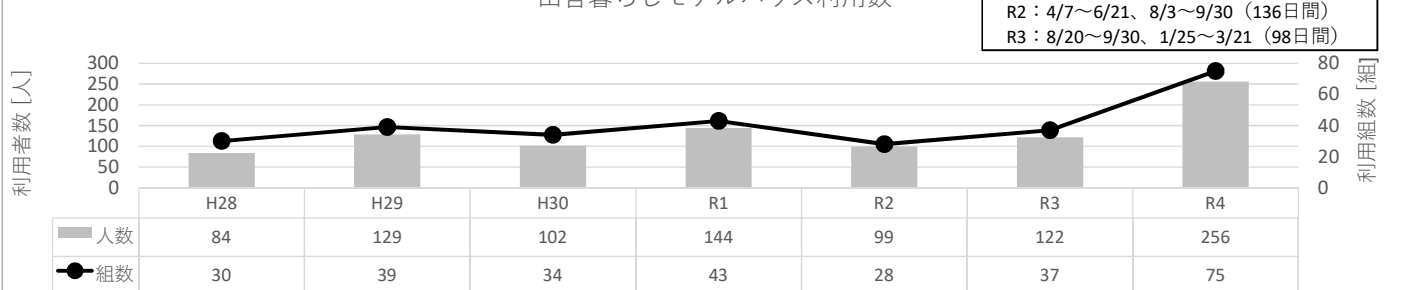


※H30までは空き家の物件見学の相談件数を加えていたが、R1から運用方法の見直しを行った。

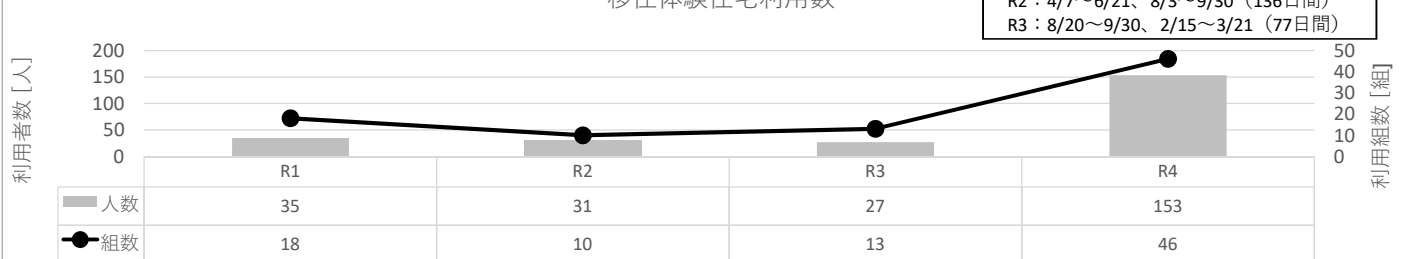
空き家バンク登録・成約数



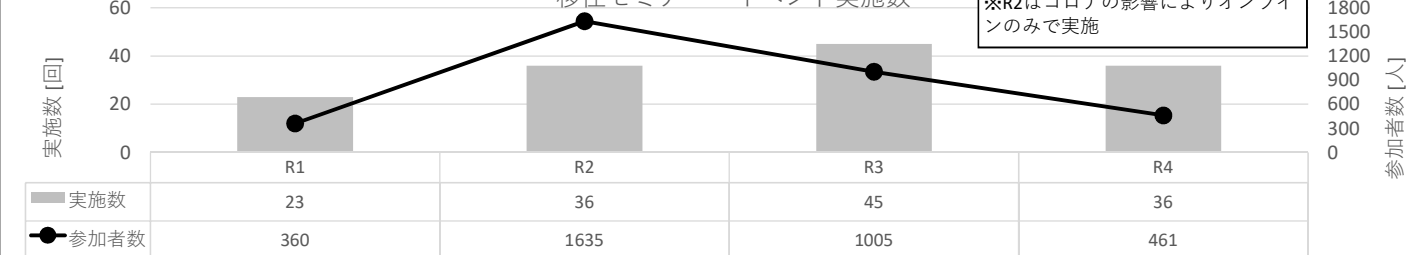
田舎暮らしモデルハウス利用数



移住体験住宅利用数



移住セミナー・イベント実施数



社会動態の推移

